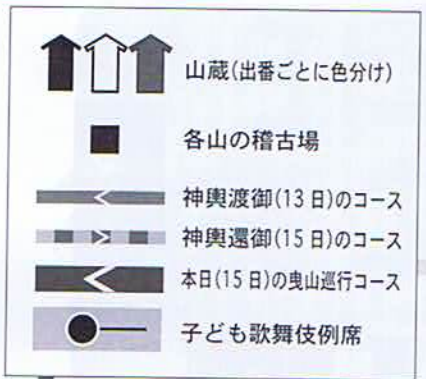
長浜曳山まつりマップ

（マップ／牛谷訓子）

江戸時代の長浜町内には、13基の曳山があり、山組内の蔵で保管されている。3年に1度の出番には、長浜八幡宮に子ども歌舞伎を奉納、その後、数ヶ所で上演しながら御旅所まで曳行する。

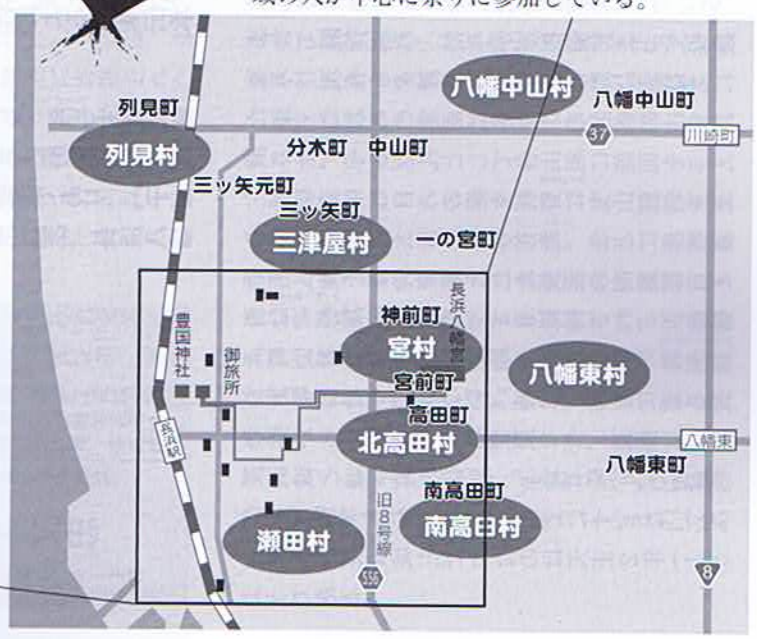
（→10ページ）

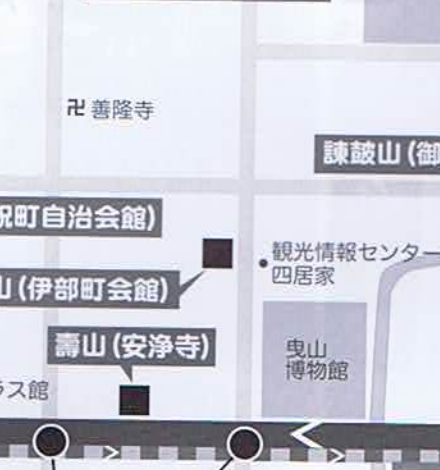


郡上太神宮
翁山
青海山
知善院
大通寺
青海山（相生会議所）
願養寺
善隆寺
日吉神社
鳳凰山
諫鼓山
諫鼓山（御堂前町家）
鳳凰山（祝町自治会館）
神前幼稚園
観光情報センター
四居家
米川
黒壁美術館
翁山（伊部町会館）
常磐山
御旅所
札の辻
みのり橋
壽山（安浄寺）
曳山博物館
宮前町
長浜八幡宮
舎那院
豊国神社
黒壁ガラス館
壽山
高砂山
すじかい橋
鮒熊席
札の辻席
米嘉席
一八屋席
金屋席
高砂山（宮町会館）
常磐山（常磐会館）
グリーンホテル
真願寺
長浜駅
長浜駅前
長浜駅口
元浜町
春日山
浄琳寺
孔雀山（神戸町会館）
孔雀山
高田町
長浜市役所
平和堂
妙法寺
長浜小学校
春日山（春日会館）
猩々丸
浄国寺
萬歳楼（八幡町会館）
神明神社
宗円寺
萬歳楼
長浜幼稚園
覚応寺
月宮殿
朝日橋
長浜鉄道スクエア
市立長浜図書館
慶雲館
猩々丸（船町会館）
月宮殿（田町会館）
真行寺
長刀山
貴船神社
成田美術館
琵琶湖

七郷って…？

江戸時代における、長浜町の周辺に位置する長浜八幡宮の氏子区域のこと。北高田村と南高田村は2村で一郷と数えた。現在も、その地域の人が中心に祭りに参加している。





【大変時（おおたえ）を支える】見物は命がけ。そこから一緒に「高大な物語をつくる」ための愛情に。

曳山まつりの1年間

祭りはいつから始まり、誰が何をしているのか…!?

4月、長浜の町は曳山まつり一色に塗りつぶされる。あちらこちらからシャギリが聞こえ、店頭には鯖そうめんや小鮎が並び、誰もがソワソワ浮き足だつ。祭りが終わらないと、春を迎えた気がしない。春どころか商売だって手につかない。長浜曳山まつりは、数多の人が酔い痴れながら、代々受け継がれてきた。

祭りは、子ども歌舞伎が奉納される4月15日を中心に、9日から17日までの9日間がメインの期間だ。ところが、実際には、今年の祭りが終わった瞬間から翌年の準備が始まるという。祭りに関わる町衆の熱い1年間を追ってみよう。

7月

●7月～9月初旬

山組総会（各山組）

各山組で総会が開催される。とくに来年出番となる四つの山組では、この総会で出場が合意され、祭りに向かって本格的な準備が始まる。

総当番役員寄り、あいさつ回り

総当番とは祭礼執行の総責任者であり、暇番（かばん）山の2組から選ばれた役員と、長刀組、出番山組、七郷、氏子総代から出仕する者、計13人で構成される（19頁参照）。暇番山の2組から正副総当番委員長が決まり、役員寄り、関係機関へのあいさつ回りなどが始まる。

9月

10月

●中旬

総当番委員初寄り

新しい総当番委員全員による初寄りが開催される。11月の山組初集会へ向けて、来年の祭りのあり方が話し合われる。

●下旬

出番山組初集会

来年の出番山組の負担人、長刀組の負担人と総当番委員が集まり、総当番から来年の各山組へ出場の意志確認をおこなう。負担人とは各山組の代表者のことで、正副2人が選ばれている。

11月

●1日

山組集会（長浜八幡宮参集殿）

全山組の負担人と総当番などによる山組の初集会が開催される。長刀組と来年の出番山組から祭りへの出場の意志が確認される。山組集会が、いつも八幡宮参集殿でおこなわれるのも曳山まつりの特徴で、八幡寄りとも呼ばれる。

2月

●1日

山組集会（八幡宮参集殿）

全山組の負担人と総当番等による山組集会が開催される。今年の出番山組から外題、三役（振付、太夫、三味線）などの発表がおこなわれる。

●中下旬

役者決定

役者になるのは、5歳から12歳くらいの男の子。

◀子どもの顔ぶれを見ながら、振付師が役者を決定。同席する家族も緊張の面持ち

▶稽古場の様子

3月

出番山組に振付師が来町し、役者親（保護者）の承諾を得た役者（子ども）と親が集められ、年齢、体型、声質などの見立てによって配役が決められる。一番山で舞う三番叟の演者は、曳山まつりに市民参加の機会を増やすため2月に公募され、3月初旬に八幡宮でおこなわれる矢くじで演者が決まる。

●2月～3月中旬

総当番寄り、出番山組集会など

総当番寄り、出番山組集会などが何度も開かれ、曳山の曳き手の確保、協賛募金の依頼による財源の確保、曳山の通る道路の点検や安全対策など具体的な事柄が決められ、処理されていく。

●20日ごろから（春休み期間）

習い番（各稽古場）

役者の稽古が始まる。稽古場となるのは、町の会館や町家と呼ばれる山組の所有する家で、曳山の舞台に合わせた組立て式の稽古用舞台が設えられる。役者は事前に渡された台本とカセットテープで台詞を覚え、その後、振付師による読み習い、節回しの稽古と進む。3月も末になると、立ち習いが始まり、ふだんはやんちゃな子どもの顔も役者らしくなっていく。

●下旬

衣装合わせ（出番山組）

出番山組に貸し衣装屋が来町し、役者の採寸をして衣装やカツラの準備を始める。4月に入ると、役者たちは、稽古用の衣装を着て、下駄をカラコロ響かせながら稽古宿へ通う。

◀厳粛な雰囲気のなかでおこなわれる山組総集会

◀曳山交替式。午前中、その年出番の山が蔵から曳き出され、午後、来年の出番山が収められる

4月

●1日

山組総集会（八幡宮参集殿）

全山組の負担人と総当番等による山組総集会が開催される。祭典参与の長浜市長や曳山文化協会理事長、観光協会長なども加わり、祭礼執行の細部が決められる。この集会は、参加者全員が着物姿で列席し、あらたまった雰囲気がいっそう強くなる。

●上旬

三役・役者初顔合わせ（出番山組）

出番山組に太夫と三味線が来町し、三役、役者と親、負担人、若衆筆頭などが集まって初顔合わせがある。稽古も太夫と三味線が入ると、本番さながらの演技になっていく。役者にとっては、この時期がもっともつらく苦しい。

●最初の土曜日

曳山交替式（曳山博物館）

曳山博物館に展示されていた出番山4基が自町の山蔵へ戻り、替わって翌年の出番山が博物館へ入る交替式がおこなわれる。この頃になると、春らしくなって観光客も増え、曳山博物館の広場は大勢の見物客で賑わう。

●9日午後6時30分

線香番（各稽古場）

総当番が稽古場へ出向き、狂言の時間（出箇を含め40分以内）を計る。昔は、線香の燃え方で時間を計っていたためこの名が付いた。稽古風景が一般公開されるのもこの日から。観光客の観覧も

〈【十八番（おはこ）】7代目市川団十郎が家代々の得意とした18の芸を「歌舞伎十八番」と名づけたことから、一般に「得意芸」の意味に。